

週刊センターニュース

No.104



第104号(2006年4月10日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第111回共同学習会のご案内

日時: 4月13日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ: 大学コンソーシアム京都FDフォーラム「これからの大学教育」参加報告

報告者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター 教育支援システム研究部門)

趣旨: 第11回FDフォーラム第1分科会「授業改善 - 双方向型授業の実践 -」において実践報告が行われた「グループディスカッション+メーリングリスト+全員スピーチ+授業ホームページ」、「当日ブリーフレポート方式」、「ディベート方式」、「橋本メソッド」について紹介させていただく。現代大学教育で求められている双方向性をどのように実現するかについての有効な示唆となるものと思われる。

第112回共同学習会のご案内

日時: 4月20日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

報告者: 西山 宣昭(大学教育開発・支援センター 大学教育研究開発部門)

テーマ: 英語教育のカリキュラム事例研究

趣旨: 今後、3学域下でのカリキュラムについての検討が本格化すると思われる。今回は、英語教育を取り上げ、他大学の事例を紹介し、カリキュラム検討の参考情報として供したい。

第113回共同学習会のご案内

日時: 4月27日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

報告者: 渡辺 達雄(大学教育開発・支援センター 評価システム研究部門)

テーマ: 韓国の高等教育(仮題)

2005年度IDE高等教育研究フォーラム「日本の高等教育 2010年までのシナリオ」報告

2006年3月25日(土)にIDE大学協会主催のフォーラムに参加した。「国立大学法人の展望」「私立大学の再編」そして「高等教育政策の展望」の3つのセッションで構成され、講演がなされた。

小宮山東大総長の「国立大学 - 2010年までの課題」では、法人化の形はできたが、趣旨の理解が不

十分で、制度はとしてまだ落ちついてない、効率化が図られていない、加えて法人と学部（部局）との間の関係（例えば、縦割りの役員会）において難点があると問題を指摘する。将来への課題として、把握できないほど大学組織が拡大した状況で、自律分散協調系のシステムが求められてくること、大学人件費の意味について、社会に問いかける必要があること、各国立大学がミッションを明確にし、現状において最適な役割が何か、自分のどこにエクセレンスをおくか＝「個性化・特化」するかを考えると重要になると述べた。これに対し、天野郁夫氏は、国立大学財務・経営センターのアンケート調査結果も踏まえつつ、全学的合意形成や一体感の形成に難があること、「法人」部分よりも「大学」部分に財務上の問題があること、国立・大学・法人は一体化しているか？トライアングル状態で各々にコンフリクトがあるとコメントし、基本的に一致した認識を示した。

第2セッションの「私立大学の再編」では、現状が市場状況をあまりに無視しており、潰れやすい環境を作っていること、また現在進行中の大学改革が、今のままの大学の姿でいいのかという根本的な問いではなく、潰れないためにはどうすればよいかという方向に向いていると指摘した。今後の対応として、ミッションを再確認し、私立大の存在意義をもっと主張すべきであると述べた。

第3セッションの「高等教育政策の展望」では、近年の高等教育改革の経緯説明の後、中期的な課題として、教育研究の質向上のためにファンディング（資金）が必要になること、専門職大学院を好例に、潜在的需要を顕在化させる政策が必要であること、効率性・公正性（機会均等）を支えるシステム作りが求められてくると指摘された。

全てのセッションを終えての討論において、日本の高等教育のひずみとして、分野構成の調整をどうすべきか、市場に任せるか政府の政策に委ねるべきか、またそもそも専門的な分割が必要であるのか、学部段階で専門分野を分けることに意味があるのか、政策的に調整するよりも、個別の大学に委ねていいのか、大学教員の教育力が問題で、教育プログラムの問題ではなく、現実とあまりにかけ離れた専門分化した教員を養成する大学院こそ、教養教育を一番軽視しているとの意見も出された。

今回のフォーラムはさまざまな点で刺激的であったが、大学に共通に必要なものと、共通に蓄積していくべきものを確立していくべきで、また大学の教育の質の高度化が、どのようにすれば達成できるのか、構成教員がイメージできるようなシステムを構築していかなければならないと感じた。（文責：渡辺達雄）

センターからのお願い

- ・ センターニュースで取り上げてほしいテーマを募集します。また、センターニュースを読んだのご感想や当センターへの要望などをメールにてお寄せください。
- ・ 共同学習会での話題提供などを募集いたします。

info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jpまでお願いいたします。